

## 第6講 構想・立案・材料の準備 (5/21)

[テーマ] レポートの構想を立てる

### 1 前回課題について

- 文を分割した場合、前後とスムーズにつながるかどうか注意すること
- 1文で書けば繰り返さなくてよいことも、2文以上にわけた場合は、いちいち繰り返したほうがよいことが多い
- パラグラフの内部構造との兼ね合いがあるので、小さく分割すればよいとはかぎらない
- 箇条書きや注を使うこともできる

### 2 構想を立てる

#### 2.1 準備と方法

まず、材料を集める。中間レポートでは「素材」が決まっているので、そこから注目すべきところについて付箋をつけたりカードに書き出したりするとよい。

材料が集まったら、どんな順序に並べるか、どういうセクションを立てるかを決める。いずれにしても、文章を書き始める前に、紙の上で構成を考える。この時点で、鍵になる用語を決め、概念の定義をしておくといよい。

他人と議論したり、他人からの疑問を想定して答えを考えていくのも有益 (大島ほか 2005)。

紙の上に「マインドマップ」を書く方法もある (日経BP社 2010)。

#### 2.2 構成表

配列と構造を考えながら、大きい紙に項目を書き並べる。色ペンなどを活用するとよい (教科書 pp. 52-53)。

#### 2.3 スケッチ・ノート

ひとまとまりの項目を小さいカードに書き出す。それらのカードを並べて、配列を考える。色ペン・輪ゴム・ホチキスなどを活用して、まとめていく (教科書 p. 54)。

- カード1枚が1パラグラフに対応する →トピックがはっきりしている必要がある
- 広い場所が必要である

## 2.4 暫定的目次

- 構成ができたなら、各セクションの見出しをつけて、まず目次から書きはじめる
- 目次は、本文を書き進めるにしたがってどんどん変更する
- 項目の取捨選択も重要である

## 3 次回の準備

次回は中間レポート草稿の相互批評をおこないます

- 草稿を2部準備
- 赤ペン、その他の色のペン、国語辞典を準備

## 4 文献

月刊ビジネスアスキー編集部 (2010) 『本当に頭がよくなるマインドマップ ”かき方” 超入門』アスキー・メディアワークス.

川喜田二郎 (1967) 『発想法』中央公論社.

川喜田二郎 (1970) 『続・発想法』中央公論社.

木村泉 (1993) 『ワープロ作文技術』岩波書店.

日経BP社 (2010) 『実践ノート & 書類術: 成長し続ける人のスゴ技を大公開!』(日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ 日経BPムック) 日経BP社.

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂 (2005) 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房.

梅棹忠夫 (1969) 『知的生産の技術』岩波書店.